

幼稚仔保育場追跡調査

竹内 四郎・森脇 晋平・佐竹 武充

1) 調査概要

52年3月に設置された多伎幼稚仔保育場について、約1年4ヶ月経過後の状況を把握して、稚貝放流の効果を追跡するための予備調査として、水試鹿島分場、松江水産事務所、沿岸漁業整備開発協会の協同で現地調査を行ない、その資料を分類、整理したものである。

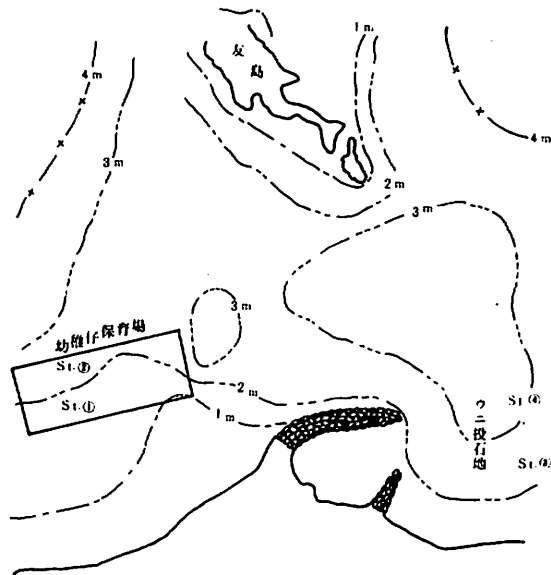
2) 調査方法

53年7月10日、現地に行き、伝馬船からの「ノゾキ調査」及びアクアラングによる潜水調査で観察並びに資料採取を行ない、その資料について検討した。

3) 調査結果

7月は、海藻類については夏枯れ時期にあたっているため、調査時期としては最適とはいえないが、概要を知ることは可能であるため実施したものである。

坪刈り調査と「ノゾキ」調査の結果によると、六脚ブロック、N型ブロック共に、沈設場所に安定しており、共に表面は100%近く、海藻、貝類等におおわれているが、下側には、海藻の着生が少なく、ウニ、ヒザラガイが多くみられ、表面には、バテイラとクボガイが多く、他にイトマキヒトデがおり、一部に



第1図 調査地点付近要図

はスガモの着生がみられた。サンゴモ類は主として無節が多く、その上に小型藻類が着生している。又附近の岩礁には、クロメも多く、ノコギリモク、オオバモク、アカモク、ヤツマタモク等大型藻もかなりあるが、六脚ブロック、N型ブロック共に小型藻の方が多くみられた。「ノゾキ」でも、坪刈り調査でも、海藻の着生は全般に多く、浅所にはアオサもみられ、幼稚仔保育場として考えた場合、餌料は充分ありそうに思われるが、冬季、春先の生物相も調査してみないと、はつきりし

たことは判らない。

第1表 坪刈調査表

Station 種類		St①	St①	St②	St②	St②	St③	St③	St④	St④
		上	下	上	側	下	上	下	上	下
海	フシスジモク	20g		4120g	600g					
	ヤツマタモク	20		26					1,010g	
	オオバモク				62				40	3g
	マクサ	29								
	ヒラクサ		2g							
	オバクサ			2						
	ヨレクサ	12								
	アミジグサ		3							
	イバラノリ	35						2g		
	ソゾ	600								
藻	フクロノリ	5								
	ムカデノリ	14								
	モズク	2		8						
	アオサ						860			
	クボガイ	1ヶ	2ヶ	369ヶ	16ヶ	1ヶ	10ヶ		8ヶ	1ヶ
貝類	ヒザラガイ		2				1	8ヶ	1	12
	バテイラ	1		48	2	2			1	
	アワビ			1(90g)						1(19g)
	レイシ			6						1
	ムギガイ			2						
その他動物	イトマキヒトデ		1							3
	クモヒトデ									4
	バフンウニ		3							29
	アカウニ									5
	アカナマコ									2
	ヤドカリ								4	
植物	スガモ	2g								

St①

幼稚仔保育場の西側、岸寄りの地点で、六脚ブロックが沈設されており、水深は1.0～1.5mと浅く、周辺には天然の転石、岩盤等もあり、海藻の着生は、かなり多い。ブロック表面は100%の被度で、ソゾ、イバラノリ、マクサ、ヨレクサ、フクロノリ、ムカデノリ、等の小型藻が多く、

ヤツマタモク、フシスジモク等の大型藻も着生しており、スガモが少しみられた。下面には藻類の着生は少なく、僅かにヒラクサ、アミジグサがあり、バフンウニ、イトマキヒトデが採集された。表面にはクボガイ、バテイラがみられた他モズクの着生があった。

S t ②

N型ブロック沈設置で、水深は2.0～2.5 mと少々深く、表面は100%の被度で、フシスジモク、ヤツマタモクの大型藻が多く、その他マクサ、モズクが若干着生し、アワビ(クロ)1ヶ、レイシ、バテイラ、クボガイ、ムギガイがかなり多く着生している。附近の天然礁には、クロメが m^2 当り2～8株着生している他、モク類が m^2 当り5～10株、マクサ、ソゾ等小型藻が着生し、魚類では、キウウセン、ギンポ、メジナ、アイナメ、ウミタナゴが確認された。側面にはフシスジモク、オオバモクが着生し、バテイラ、クボガイがみられた。又下面には海藻の着生はなく、クボガイ、バテイラ、ヒザラガイがみられた。

S t ③

過去に実施したウニ投石地で、水深は1.5 m内外と浅く、アオサの着生が多い。その他の藻類ではイバラノリが多く、クボガイ、ヒザラガイが表面にみられる他、下面にはバフンウニとヒザラガイが多く着生していた。

S t ④

S t ③より少し沖に出たウニ投石地で、水深は2.5～3.5 mあり、浅い所にはスガモの着生があり、下面にはバフンウニ、アカウニがかなり大量に棲息していることが確認された。

(4) 考 察

調査結果の中で述べているように、夏季の調査だけから判断することはむづかしいが、幼稚仔保育場の施設は安定していて、大型、小型藻共に、かなり多く着生しており、バテイラ、クボガイ、バフンウニ等も多く棲息しているところからみると、餌料は、種類のには問題があろうが(アオサ、クロメ等が少なかった)量的には想像していたよりも多く着生しており、アワビ稚貝の放流に支障はない様に思われるが、それは春先にワカメ、アオサ等が相当着生することを期待した上での推察であり、今後もこの点を考慮した上で調査を継続してゆかねばならない。